

第73回応用物理学会春季学術講演会 シンポジウム

AI時代における大規模ストレージ・ 不揮発性メモリ技術の将来展望

2026年3月17日(火)13:30-17:35

東京科学大学 大岡山キャンパス/Zoomハイブリッド

AI技術の社会実装が本格化し社会にさまざまな変化をもたらす中で、仮想空間におけるデータの創出・蓄積・流通量はますます増加している。今後も情報通信技術(ICT)のさらなる発展が期待される一方で、データセンターの電源確保などの課題も顕在化しており、ストレージや不揮発性メモリの一層の技術的な進歩が求められている。本シンポジウムでは、熱アシスト磁気記録やMRAMといった実用化技術から、次世代メモリの研究動向に至るまで、ストレージや不揮発性メモリの将来像をユーザーの視点も織り交ぜながら議論する。

不揮発性メモリを用いたエッジAI向けComputation-in-Memory

竹内 健 東京大学

エッジAIアプリケーション向け混載MRAMマイコンの動向

田代洋介 ルネサス

MRAM研究開発のこれまでとこれから

薬師寺 啓 産総研

熱アシスト磁気記録を用いたHDDの製品化

池田政臣 Western Digital

超大容量HDDに向けた材料開発と新原理磁気記録方式の提案

高橋有紀子 NIMS

異常ホール効果に基づく次世代ハードディスク用読み出しヘッド

首藤浩文 NIMS

強誘電媒体型HDD

大野 淳 Western Digital

高積層世代3次元フラッシュメモリの課題に対する新規水平チャネル型フラッシュメモリ

小田 穩 キオクシア